

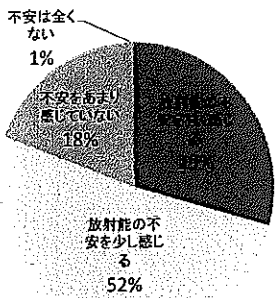
日高高原の里プロジェクト

(イメージ図)



福島県の母親たちへのアンケート
回答数 354 通 (2016年5月)

現在の福島の子どもの生活に感じていること



また、「保養はこれからも必要だと思うか?」という問いには、96%が「はい」、3%が「いいえ」と答えました。

※「未来の福島子ども基金」と共に実施

2016年5月に福島県の母親たちに対しておこなったアンケート(左図)に加え、2016年7月にチェルノブイリで甲状腺の手術をおこなった人々30人に対するインタビュー調査では、この人々が青少年期に、保養に大きな希望をつないでいたことが分かりました。

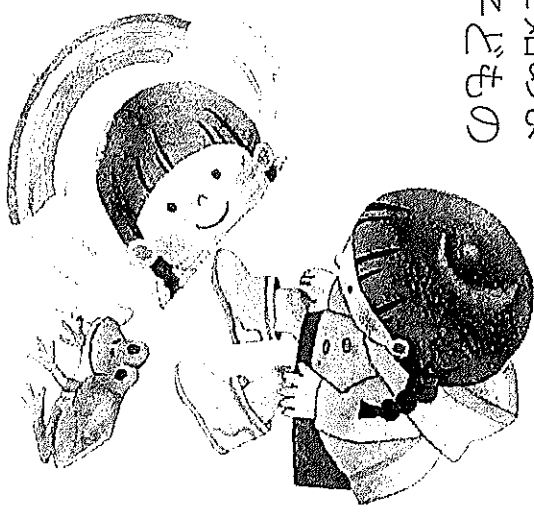
そのため DAYS 被災児童支援募金では、「沖縄・球美の里」に次いで、持続可能な形の保養施設の建設を急務と考え、北海道日高町でこのプロジェクトに取りかかります。もしこのプロジェクトが完成すれば、福島に住み続けている子どもや、避難している子どもたちだけでなく、手術をした子どもの家族を優先的に受け入れて、きちんとカウンセリングできる体制をつくりたいと思います。そして医師との連携により、心と体の健康回復をめざす施設にしたいと思います。このプロジェクトは、地元の農業振興プロジェクトと力を合わせて進めていきます。皆様の募金をどうぞよろしくお願い致します。

DAYS被災児童支援募金よりお知らせ

DAYS募金では、北海道の日高に新しく保養施設を建設するプロジェクトを始めました。つきましては、この新規事業「日高高原の里建設」と「甲状腺がんの子どもの支援」のご説明と、発送作業をおこないます。ぜひご参加ください。

【日時】 9月24日 (土) 17:45 ~ 21:00

※説明をさせていただいた後に発送の作業をおこなう予定です。
お時間のない方は、途中退出、途中参加も可能です。



【会場】

北沢タウンホール3階ミーティングルーム

(小田急線、京王線下北沢駅下車4分)

<https://kitazawatownhall.jp/map.html>

【申し込み連絡先】

DAYS被災児童支援募金

世田谷区松原 1-37-19-402

電話 03-5376-7898

メール shienbokin@daysjapan.net

DAYS JAPANからのご協力をお願い

突然ご連絡を差し上げます。

月刊誌DAYS JAPANは、福島甲状腺がんの報告や、それを予防する安定ヨウ素剤（以下ヨウ素剤）の記事を何度も取り扱ってきましたが、もしすでにヨウ素剤をお持ちでしたら、その情報をお聞かせいただきたいと思います、このメールをお送りしました。

ご存じのように2011年3月の福島第一原発事故では、国や県は住民にヨウ素剤の配布をおこないませんでした。ヨウ素剤の必要は国際的な常識であり、事故前に日本の専門機関で語られていたこと、その副作用は小さなことが専門家会議でも知られていたこと、さらに現在、原発立地自治体では国と県によってヨウ素剤の配布が進められていることなどについては、DAYS JAPAN（2016年7月号）で特集をしておりますのでご覧になった方も多いと思います。

そこでも書きましたように、各自治体で5キロ圏内、10キロ圏内と不十分ながらさまざまな対応がおこなわれています。しかし現在の福島県内の小児甲状腺がん発症数を見ますと、原発から60キロ以上離れた郡山市と福島市で最大件数が報告されています。

今回私たちは、国や県からの指示を待つことなく、通販などで自衛のためにヨウ素剤を購入されていらっしゃる方々に、以下の質問にお答えいただき、ご回答をお願いすることになりました。よろしくお願いいたします。

ご質問

- 1 備えていらっしゃるヨウ素剤の製品名、メーカー、錠剤数、大人一回の必要錠剤数などを教えてください。
- 2 お求めになった時期とその理由
- 3 購入方法
- 4 この製品にたいしてお感じになっていること
- 5 どういう状態になればご使用されようと思っておられますか？
- 6 できましたらその製品の写真を添付してください。
- 7 お住いの市町村
- 8 お名前とご住所、ご連絡先 メールアドレス
(〇匿名希望の方はこちらに丸をお付けください)

ご回答の締め切りは9月28日までにはいただけましたら幸いです。

この結果は、DAYS JAPAN誌面でご報告させていただきたいと思っています。

ご返信先

info@daysjapan.net

DAYS JAPAN編集部 広河隆一